

水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画の概要



〔第8次愛知県栽培漁業基本計画〕

計画期間：2022～2026年度（5年）

愛知県の栽培漁業は、対象種である、くるまえび、がざみ、とらふぐ等の漁獲量が全国上位となるなど、漁業振興や資源の維持・増大に重要な役割を果たしています。この計画は、栽培漁業を引き続き計画的に推進するため、沿岸漁場整備開発法に基づき策定いたしました。

1 水産動物の種苗生産・放流等に関する指針

- 稚魚の漁獲の抑制や親魚の獲り残し等の漁獲管理との一体的な取組を推進します。
- 放流効果の検証に基づく対象種の重点化を踏まえた効果的な栽培漁業を推進します。
- 栽培漁業の継続的な実施体制の確立に取り組みます。
- 生物多様性の保全へ配慮し、両立に努めます。
- 県民への栽培漁業に関する理解の醸成と普及に取り組みます。
- 種苗放流と種苗の育成の場の整備との連携を推進します。

2 水産動物の種苗生産・放流等の推進について

種類と放流数量目標を次のとおり定めます。

中段：放流数量目標（2026年度）
下段：第7次計画との比較

			
とらふぐ	あわび	みるくい	はまぐり
18万尾	27万個	14万個	100万個
3万尾増	維持	新規	新規
			
くるまえび	がざみ	よしえび	なまこ
2,200万尾	183万尾	560万尾	120万尾
200万尾増	23万尾増	160万尾増	50万尾増

3 水産動物の種苗生産・放流等に関する技術について

- 技術開発を推進します。
 - ・放流種苗の生残率向上のための、放流適地、放流サイズ及び放流尾数の把握
 - ・種苗生産の効率化
 - ・対象種の生理・生態、餌料、生息環境等の知見の充実
- 技術の維持・継承に努めます。
 - ・種苗生産、放流等の現場における各種技術の適切な利用
 - ・計画的な人材確保、技術のマニュアル化
- 技術開発水準の到達すべき段階
種苗生産・放流等に関する技術の向上を図るため、目標の段階を下表のとおり設定します。

	基準年(2022年度) →目標年(2026年度)	分類	技術開発段階
とらふぐ	E → F	A 新技術開発期	種苗生産の基礎技術開発
あわび	F → F	B 量産技術開発期	種苗の量産技術開発
みるくい	C → D	C 放流技術開発期	種苗の量産技術の改良
はまぐり	C → D		放流手法の検討
くるまえび	E → F	D 事業化検討期	資源量に応じた放流数量の検討
がざみ	E → F	E 事業化実証期	種苗生産・放流体制の整備
よしえび	E → F		経費負担配分の検討
なまこ	E → F		持続的な栽培漁業が成立
		F 事業実施期	